

科目名	プロフェッショナルダンス2							年度	2025
英語科目名								学期	後期
学科・学年	ダンスパフォーマンス科 2 年次	必／選	必	時間数	120	単位数	4	種別※	実習
担当教員	井口雅人/野中志乃		教員の実務経験		有	実務経験の職種		音楽プロダクション制作業務	
【科目の目的】									
この科目では卒業公演、イベント出演に伴うリハーサル、場当り出演、本番などを通してダンスの技術はもちろんコンディション作り、スケジューリングやコミュニケーション力などを学びます。									
【科目の概要】									
この科目では卒業公演、イベント出演に伴うリハーサル、場当り出演、本番などを通してダンスの技術はもちろんコンディション作り、スケジューリングやコミュニケーション力などを学びます。									
【到達目標】									
この科目ではHIPHOP、OLD SCHOOL、HOUSE、JAZZ、バレエ、コンテンポラリーの各ジャンルの理解度を深め実演するとともにプロダンサーとしてのメンタリティー、マナーを学びます。									
【授業の注意点】									
担当講師の指示に従い振付けや構成の確認をして臨む事、怪我や病気の予防、スケジューリングなどの自己管理をしっかりとる事。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	専門分野の範囲を把握し、学際的な学びの意義を知る		専門分野の範囲を把握している		到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを現場で体験し知見を得る		専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを説明できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	学んだことを学校の実習や将来の現場で生かす複合的な視座を体得する		学んだことを学校の実習で生かす複合的な視座を体得する		到達目標Cについてさらなる努力が必要				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】									

適時レジュメ・資料を配布する							
【参考資料】							
【成績の評価方法・評価基準】 平常点 100% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する							
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。							
科目名		プロフェッショナルダンス2				年度	2025
英語表記						学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	第一課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を 理解	1	プロダンサーとは	プロダンサーの意義がわかる		
			2	課題発表	第一課題の意義がわかる		
			3	課題理解	課題の内容を理解できる		
2	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
3	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
4	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
5	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
6	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
7	まとめ	応用方法を 学ぶ	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3	課題発表	第一課題をまとめ、発表する		
8	第二課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を 理解	1	第一課題の振り返り	第一課題について振り返りができる		
			2	課題発表	第二課題の意義がわかる		
			3	課題理解	課題の内容を理解できる		
9	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
10	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
11	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
12	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		

13	実践	現場体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
14	まとめ	応用方法を学ぶ	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る		
			2	構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3	課題発表	第二課題をまとめ、発表する		
15	総合復習	復習の実践	1	第一課題の振り返り	第一課題を自分のものにできる		
			2	第二課題の振り返り	第二課題を自分のものにできる		
			3	分野横断の可能性	分野横断技術を体得することへの可能性を知る		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							